

4. 手話における地域方言について

SI0323 松田 一恵 SI0325 矢野 恵子

SI0327 山添 晶子 SI0215 山本 綾子

1. はじめに・研究目的

「手話にも方言がある。[名前]という意味を持つ語が、西日本と東日本で異なっているという話はよく知られている。(中略) おおまかにいって、現在の日本には東日本の東京系と西日本の大阪系という二大方言があり、[名前]という語はその象徴的な存在である。」

米内山明宏 (2003) 「手話にも方言がある」『言語』第32巻第8号

日本語において地域方言があるということは以前から広く知られており、その分布には東西対立・周圏分布・複雑分布・全国共通分布などさまざまな形がある。手話においても同様に地域方言が存在すると言われている。手話方言については米内山明宏 (2003) が「手話にも方言がある」というタイトルで執筆している。

手話の二大方言というものは実際に存在するのか、また手話も日本語と同じように方言伝播における法則があるのだろうかと考えたが、今まで手話方言の分野においては詳しい分布を示すデータが少なかった。そこで、その疑問をもとに各地でどのような手話単語が使用されているかを調査することとした。集めたデータから手話の地域方言における分布を示し、そこから米内山 (2003) の説を裏付けるようなデータが得られるのではないかとこの予想のもとに研究を開始した。

2. 予測

【分布】

基本的には東西対立している単語が多いのではないかとこの予測を立てた。また、四国や九州・北海道など、本州と海で隔てられ歴史的・地理的につながりがありなかつたと予測される地域では独自の表現が多く発生しているのではないかと考えた。

【境界線】

東西対立が存在する場合、境界線はどこに存在するだろうか。日本語の方言の場合、東西方言の境界線は単語によっても異なるが、一般に富山・岐阜・愛知と新潟・長野・静岡の県境に存在すると言われている(橋本進吉 1970)。手話の方言についてもそのあたりに存在するのではと予測を立てたが、／名前／という単語については米内山 (2003) が境界線の予測を示している(4. 調査結果・考察の「I. 東西対立の場合の境界線」参照)。

3. 調査方法

- ①学院ろう教官にインタビュー
- ②全国大会(スポーツ体育大会・老人大会など)で出会ったろう者にインタビュー
- ③実習先・帰省先などで出会ったろう者にインタビュー
- ④手話通訳学科の学生に協力を依頼し、それぞれの出身地で手話方言を調査

※調査内容

- ・各地でどのような方言が使われているか
- ・調査対象者の年齢・出身ろう学校・転居の有無など
- ・途中で使用単語が変化した場合はその要因など

※調査対象者：89名（2005年2月27日現在）

年代別男女比については図1参照

4. 調査結果・考察

集めたデータから、単語ごとに分布図を作成した。さらに年代によって2つに分けた分布図も作成し、そこからさまざまな角度で考察を行った。

I. 東西対立の場合の境界線（例／名前／）

／名前／という単語については概ね東西対立の分布が見られた。東日本に分布する語を「い」、西日本に分布している語を「ろ」と呼ぶ。／名前／の境界線について米内山説と調査結果の比較を行った。米内山（2003）によると／名前／の境界線については「岐阜と滋賀、愛知と三重、新潟と富山・長野の間にあるようだ」としている。それに対して調査結果によると、境界線は長野と群馬・山梨、静岡と愛知に存在し、新潟と岐阜では2つの表現が混在していた〈資料1参照〉。

①愛知の扱いにおける米内山（2003）と調査結果の食い違い

調査結果によると愛知では「ろ」が使われ、岐阜では「い」「ろ」が混在していた〈表1参照〉。しかし米内山（2003）は愛知と岐阜を東日本側の手話が使われている地域としている。米内山説（愛知を東日本側とする説）については、まず米内山（2003）が自身の経験から実際には表現が混在している岐阜を東日本側とする分類を行い、岐阜を東日本側に入れたことによって隣接する愛知も東日本側に分類するという結果が導き出されたのではないかと考えられる。

②岐阜の混在

岐阜で2つの表現が混在している点については、もともと岐阜では「ろ」が優勢だったものが、近年になって混在に変化したのではないかという可能性が考えられるが、この仮説は年代別のデータを分析することによって否定される〈表1参照〉。

③新潟の混在

新潟においては高齢者層では「は」、若年層では「い」と、年代によって使用単語の変化が見られる〈表1参照〉。このことから新潟においては、近年になって「い」へ変化した可能性がある。その場合、変化後の境界線は新潟と富山の間となり、米内山（2003）の境界線と重なる。

表1

／名前／ ●→い ▲→ろ ▼→は

	50～70代	10～40代
岐阜	●▲	●▲
愛知	—	▲
新潟	▼	●
長野	▲	▲

←年代による変化なし(単語の混在)

←年代によって単語が変化(境界線の移動?)

II. 年代による単語の変化(例/日曜日/) <資料2参照>

各地の年代別分布図から年代によって使用される単語に変化があった地域を抜き出し、比較した<表2参照>。

表2

／日曜日／ ●→い ▲→ろ ▼→は

	50～70代	10～40代
岐阜	▼●	▼▲
和歌山	▼●	▲
山口	▼	▼●▲
鳥取	▼	●
長野	▲	▼

} 音韻変化

←優勢な単語への変化

←回帰現象

①岐阜・和歌山・山口における変化

この3県については、「は」から「ろ」への変化または「ろ」の表現が加わるという変化が見られる。これは両手が異形であるよりも同形である方が経済的であることから、音韻変化の必然的な流れによるものと見られる。

②鳥取における変化

鳥取では年代によって「は」から「い」へと変化している。これは、もともとの使用単語である「は」からより優勢な単語である「い」に取って代わられた例と言える。

③長野における変化

岐阜・和歌山・山口に見られる変化とは逆の方向への変化の様子が長野で見られる。これは一度新しい形へ変化した語が元の形へ戻る回帰現象と考えられる。「回帰現象は方言に頻繁にみられる。方言は近隣の有力方言や標準語(共通語)、文章語(文語)の影響をたえず受けている。話し手の中に、より魅力的な、より正しいものに対するあこがれがあり、それと一体化したいという願望があるからである」(亀井孝・河野六郎・千野栄一 1996)

III. 複雑分布(例/夕方/) <資料3参照>

全国的に分布のばらつきがあり、また方言の種類もバリエーションが多い。年代による違いも見られないため、時代の流れによる変化という可能性も考えにくい。この単語に関しては実際の夕焼けや日没の様子を視覚的にとらえて言語化している可能性が高い。その

場合、別々の地域で偶然同じ単語が発生するということも考えられ、相互の関係性の証明が困難である。

①「ろ」の表現の分布

さまざまな表現が複雑に分布している中で「ろ」の表現については九州・中国・四国の一部と和歌山には分布しているが、それより東には見られなかった。「い」の表現は全国的に分布しているが、西日本の高齢者層にも使われているので、もともとは東西で「い」「ろ」の表現が分かれており、近年になって優勢な単語である「い」が西日本にも広がってきたとは考えにくい。しかし、「ろ」に関しては西日本特有の手話単語であると言えるだろう。

IV. 全国共通分布（例／すみません／）

東京と大阪という比較においては確かに表現が異なっていたが、東西対立という分布ではなく、ほとんどの地域で同じ単語の使用が見られた（資料4参照）。年代による差も見られず、70代のろう者にも使用が見られるため、少なくとも昭和初期にはすでに全国共通分布となっていたと考えられる。東京と大阪の表現が異なっているため東西対立があると思われがちだが、実際には「ろ」の表現は大阪と北海道以外への分布は見られず、この例は東西対立を示すものとはならなかった。

大阪と北海道で同じ単語の使用が見られたことについては野呂一（私信）が「明治維新後の日本海の海運ルートにおけるろう者の移動によるものが大きい」としているが、それを裏付ける資料はまだ得られていない。

5. おわりに

「手話の二大方言というものは実際に存在するのか」という疑問から研究を始めたが、実際に調査を進めてみると、／名前／に関しては確かに東西対立という分布が見られ、米内山（2003）の説を裏付けるものが得られたが、全体としては東西対立のある単語は容易には見つからず、結果として「手話には二大方言がある」と言えるだけの証拠はなかった。また、米内山（2003）では「手話の発生はろう学校の設立と深い関わりがあり、その伝播は第一に生徒の転校、第二にろう教員の移動が重要な役割を果たしたと考えられる」としているが、今回は手話方言の分布とろう学校の設立やろう教員・生徒の移動とのかかわりを示唆するようなデータは得られなかった。

今後の研究にいくつか課題が残る。まず同一地域における幅広い年代のデータを収集することができれば、年代による変遷や語彙変化の様子がより正確に見えてくるだろう。また、手話の伝播を調査する上で、高齢者（60代以上）のデータを多く収集していく必要がある。

《参考文献・サイト》

Karen Emmorey(2001). *Language, cognition, and the brain: Insights from sign language research*. Lawrence Erlbaum Associates.

井上史雄（1998）『日本語ウォッチング』岩波新書

井上史雄（2003）『日本語は年速1キロで動く』講談社現代新書

亀井孝・河野六郎・千野栄一（1996）『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂

金田一春彦（1975）『日本の方言』教育出版

金田一春彦（1977）『日本語方言の研究』東京堂出版

柴田武（1958）『日本の方言』岩波新書

柴田武（1988）『方言論』平凡社

徳川宗賢（1979）『日本の方言地図』中公新書

米内山明宏（2003）「手話にも方言がある」（『言語』32/8：80-83）大修館書店

手話資料（国立身体障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科所蔵独自動画資料）

大阪の手話 <http://park2.wakwak.com/~tat/>

橋本進吉『國語學概論』（第五章）<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~okajima/hasi/hasi0.htm>

方言楽の館 <http://ww4.tiki.ne.jp/~rockcat/>

《補助資料》手話表現

名前

- い→A-bar 手型（利き手）の親指を手掌（非利き手）に押し当てる
- ろ→F 手型（利き手）を胸に押し当てる
- は→G/Q 手型（利き手）を胸に押し当てる
- その他→G/Q 手型を反対の手の手掌の上から下へ下ろす（／テーマ／／タイトル／と同型）

日曜日

- い→／赤／＋両手B手型を手掌を下に両側から閉じる
- ろ→／赤／＋両手A手型を上下に合わせる
- は→／赤／＋手掌を上に向けたB手型（非利き手）の上にA手型（利き手）を乗せる
- その他→（盛岡）baby C 手型をあごから胸の中央におろす
（茨城）H/U 手型を横にしてあごに2回当てる

夕方

- い→5手型を顔の横から指先を前に振りおろす
- ろ→baby C 手型を顔の横から振りおろす
- は→利き手：F 手型を顔の前で下ろす
非利き手：B 手型を手掌を下に向け胸の前におく
- に→両手5手型／夜／の表現の途中で止める
- その他→（香川）L 手型を胸の前から利き手のほうへ半円を描くようにおろす
（宮崎）H/U 手型の甲で利き手と反対側の頬をこする

すみません

- い→／迷惑／から5手型で顔の前から下に振りおろす
- ろ→B 手型の親指をあごに当て、他の4指を振る
- は→5手型を顔の前で小刻みに縦に振る

資料1

東西対立

名前

い=●

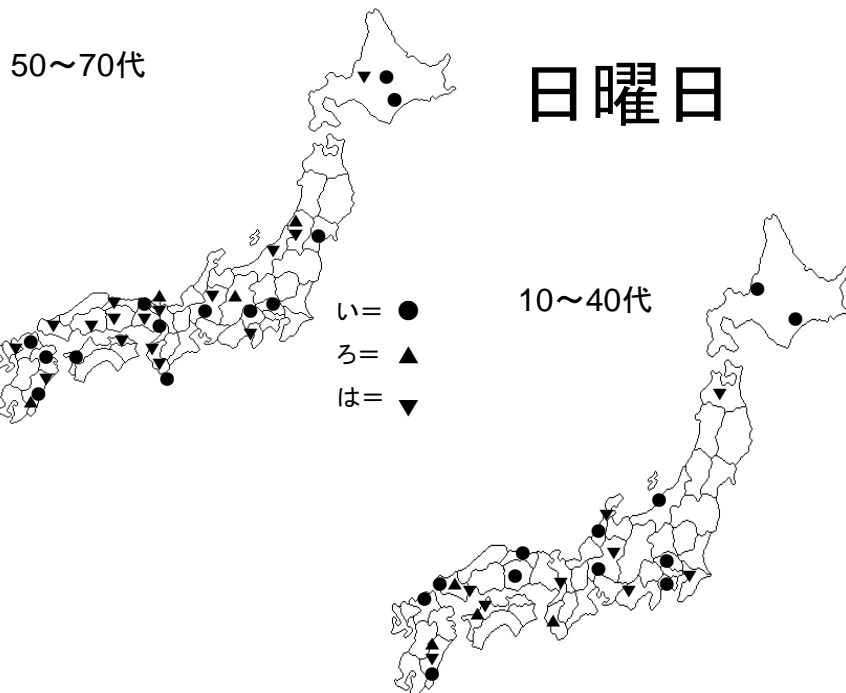
ろ=▲

は=▼

に=■



資料2



資料3

複雑分布

夕方

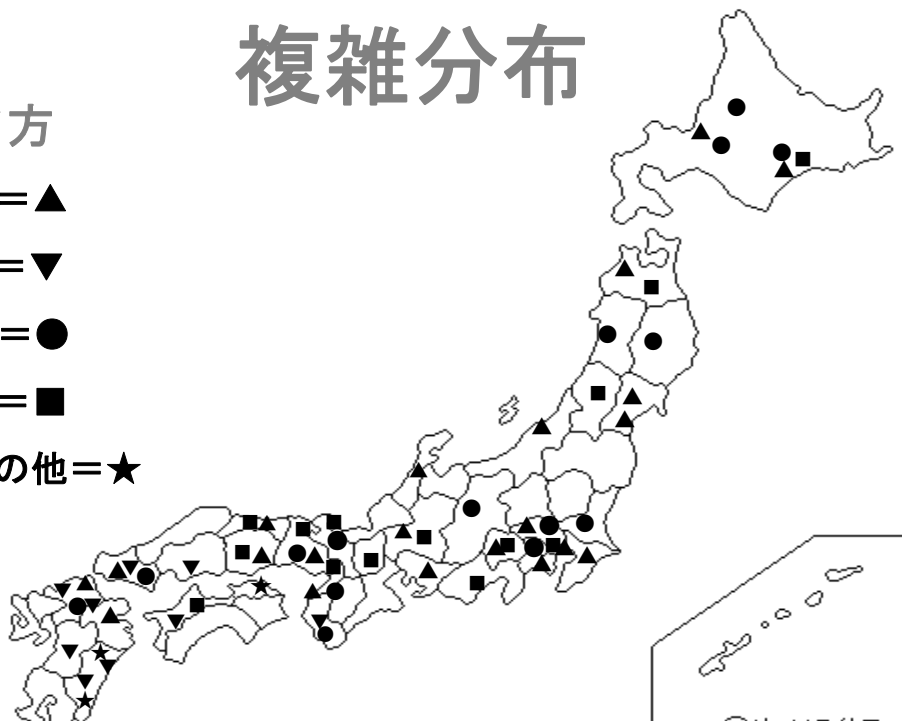
い=▲

ろ=▼

は=●

に=■

その他=★



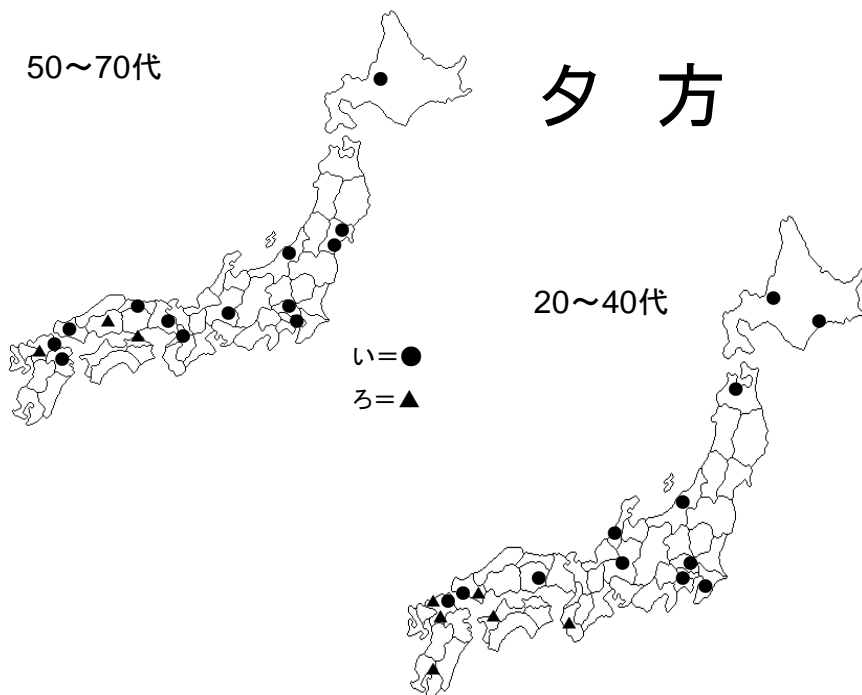
50~70代

夕方

20~40代

い=●

ろ=▲



資料4

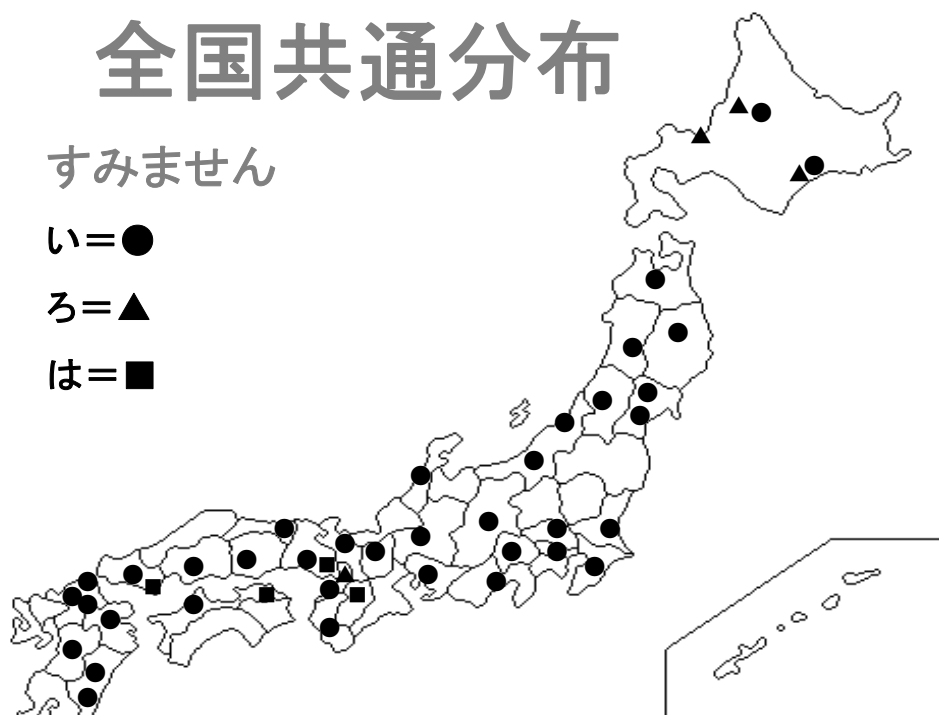


図1

